大島東小学校いじめ防止基本方針

【大島東小学校いじめ防止スローガン】

いじめの芽 摘んで育てる 笑顔の芽

【目指す子ども像】

**明るく笑顔で、人にやさしい子
いじめをうまない・みのがさない・ゆるさない子**

【家庭】

大島東小学校PTA
(運営委員会・各専門
部会・学年PTA)
おとうさんの会

【いじめ対策委員会】

PTA会長・主任児童委員
スクールガードリーダー
校長・教頭・教務主任
生活指導主任・生活部担当
養護教諭

【関係機関等】

民生委員・教育委員会
SC・SSW・大島交番
大島町児童館
社会福祉協議会

【いじめ対策委員会が取り組む主な内容】

- ・いじめ防止基本方針に基づきいじめの未然防止や対応について、校内の方針を決定し、年間計画の作成、実行、検証、修正を行う。
- ・いじめの相談・通報の窓口となり、個別面談や教育相談を実施する。
- ・いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動等に係る情報を教職員に共有する。
- ・いじめの疑いに係る情報があった場合には、会議を開いて、情報を迅速に共有するとともに、関係者への事実関係を聴取し、指導や支援の体制・対策方針の決定及び保護者との連携といった対応を組織的に実施する。
- ・「取組評価アンケート」や教職員への校内研修等を実施する。
- ・児童や保護者・地域に対し、学校ホームページを通して情報を発信し、意識啓発を行う。

【いじめの防止】

- ・「いじめはどの学級にも学校にも起こり得る」という認識をすべての教職員がもち、すべての児童がいじめに巻き込まれる可能性があるものとして、全員を対象にした事前の働きかけ、すなわち未然防止の取組を行う。
- ・いじめ防止の基本は、すべての児童が安心・安全に学校生活を送ることができ規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校づくりを進めることから始める。

教職員の取組

<校内指導体制の確立と教師の指導力の向上>

- ・いじめを生まない生き生きとした学校づくりに向け、「いじめ対策委員会」を中心とした校内の指導体制を確立する。
- ・「いじめ対策ハンドブック」「いじめのない学校・学級づくり実践資料集」等を活用した指導力向上のための研修を実施する。
- ・最低、年に1回は全教職員で道徳の授業研究会を実施する。
- ・「いじめ問題への取組についてのチェックポイント」等を定期的にご利用し、常にいじめに対する問題意識を持ち、計画的かつ継続的な点検・評価に取り組む。
- ・下校見守りや校外巡視を適宜行い、児童の校外での変化にいち早く気づく体制を確立する。
- ・スクールガードリーダーや下校見守り隊との情報交換を密に行い、校外での児童の変化にいち早く気づく体制を確立する。

<人権意識と生命尊重の態度の育成と道徳的実践力を培う道徳教育の充実>

- ・全校集会での校長講話、学級での指導において「いじめは絶対に許さない」という意識を高め自他を認める学校の雰囲気作りに努める。

- ・道徳・特別活動を通して、自尊感情、コミュニケーションスキル及び自己肯定感を高める学習の在り方を工夫する。
- ・「教育週間」「人権週間」等を活用し、いじめ防止や生命尊重等をねらいとした道徳の指導や取組を実践する。

<子どもの自己肯定感や自己指導能力の育成>

- ・「夢の実現」を合い言葉にした「夢を語る会」などの活動をとおして児童の自己肯定感を高める。
- ・児童会活動において、いじめに関わる問題を取り上げ、児童が自主的に取り組む活動を計画的に仕組み、指導・支援する。

<学校基本方針の周知>

- ・大島東小学校いじめ防止基本方針を学校便りやホームページで公開する。
- ・職員研修の充実、いじめ相談体制の整備、相談窓口の周知徹底を行う。

児童の取組

- ・他の児童や大人との関わり合いを通して、児童自らが人と関わることの喜びや大切さに気づき、互いに関わり合いながら絆づくりを進め、他人の役に立っている、他人から認められているといった自己有用感を獲得していく。

<いじめを許さないという気持ちを持ち、学校生活を送る>

- ・いじめはいけないことや、何がいじめなのかということについて理解する。

<いじめ問題を自分のこととして考え、自ら活動できる集団作りをする>

- ・「いじめの芽 摘んで育てる 笑顔の芽」というスローガンのもと各種児童会活動に取り組む。
- ・教育週間、人権集会、縦割り遊び、クラブ活動、幼小中高合同クリーン作戦などの活動を通して、いじめのない、互いに認め合う集団になるためには、どうしたらよいか考える。

<他者への尊重や他者への感謝の気持ちを高める>

- ・積極的にあいさつをして他の児童や大人と関わる。（人と関わることの喜びや大切さに気づく。）
- ・ボランティア活動、委員会活動、係活動に進んで取り組む。（他人の役に立っている。他人から認められているといった自己有用感を獲得していく。）

保護者の取組

- ・いじめ問題等について協議する機会を設け、いじめの根絶に向けた対策を推進する。

<いじめ防止に対する意識の向上と研修会等への積極的な参加>

- ・リーフレット「大切な子どもたちをいじめから守るために」等を活用し、学級PTA・専門部などの活動の中でいじめを防止する取組を実施する。
- ・長崎っ子の心を見つめる教育週間へ積極的に参加する。
- ・学校行事・授業参観等への学校の取組へ理解を深める。
- ・各種PTA行事への積極的な参加（一人一役）をし、子どもたちの健全育成に努める。
- ・関係機関が主催する各種研修会へ参加し「いじめ防止」にかかわる研修に努める。
- ・学校生活及び家庭での悩みの解消。

【いじめの早期発見】

- ・早期発見の基本は、児童のささいな変化に気づくこと、気づいた情報を確実に共有すること、情報に速やかに対応すること。

教職員の取組

<積極的な情報の収集と共有>

- ・全職員で校内での児童の行動を観察し、ささいな変化に気づいた場合にいつでも情報を共有できる職員間の協働体制を確立する。
- ・毎学期及び随時の個人面談、定期的な児童・保護者へのアンケート等により児童のきめ細かな実態把握に努める。
- ・スクールガードリーダーやスクールカウンセラー、下校見守り隊、地域の店、学童保育等との連携を図り、情報を共有する。
- ・毎月の生活連絡会、学期に2回の児童理解研修会において、各学級の情報を交換し職員間で

共有する。

- ・ 毎日の連絡帳や学級通信、懇談会等で保護者への啓発を促すとともに、情報の収集に努める。
- ・ 下校見守りや校外巡視を適宜行い、児童の校外での変化にいち早く気づく体制を確立する。

児童の取組

<積極的な情報の発信>

- ・ 定期的なアンケートや面談においていじめ等に関する情報について担任等へ伝える。
- ・ 24時間いじめ相談ホットライン、親子ホットラインの設置及びその他各種相談窓口を知る。
- ・ いじめを許さないという気持ちを持ち、いじめ等に関する情報はすぐに担任等へ伝える。

保護者の取組

<積極的な情報の発信、関係者との連携・協働>

- ・ 定期的なアンケートや面談においていじめ等に関する情報について担任等へ伝える。
- ・ 24時間いじめ相談ホットライン、親子ホットラインの設置及びその他各種相談窓口を知る。
- ・ 学校、スクールカウンセラー、関係機関等と連携する。
- ・ 地域の関係団体と連携・協働する。

【いじめに対する措置】

- ・ **いじめの発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応する。被害児童を守り通すとともに、教育的配慮の下、毅然とした態度で加害児童を指導する。これらの対応について教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で取り組む。**

教職員の取組

<速やかで組織的な対応>

- ・ いじめの発見・通報を受けた場合は、学級担任だけで抱え込むことなく、「いじめ対策委員会」へ報告し、校長以下全ての職員が対応を協議し、速やかに組織的に問題の解決にあたる。
- ・ 情報収集を綿密に行い、事実確認をした上で、いじめを受けた児童やいじめを知らせてきた児童の身の安全を最優先に考え、いじめたとされる児童に対しては、事情を確認した上で毅然とした態度で適切に指導にあたる。
- ・ 傍観者の立場にいる児童たちにもいじめているのと同様であることを再度確認し指導する。
- ・ 事案によっては、PTAや関係機関との協議を行い、解決を図る。その際は、個人情報やプライバシーの問題も踏まえ、慎重に対応する。
- ・ 下校見守りや校外巡視を適宜行い、児童の身の安全を確保する。

児童の取組

<通常の状態への回復>

- ・ いじめられた児童は、信頼できる人（親しい友人や教員、家族、地域の人等）などの支援を受け、落ち着いた学校生活復帰に努める。
- ・ いじめた児童は「いじめは人格を傷つける行為」であることを理解し、自らの行為の責任を自覚し、不満やストレスがあってもいじめに向かわない気持ちを高める。
- ・ いじめを見ていた児童は自分の問題として捉え、いじめを止めることができなくても、誰かに知らせる勇気をもつ。

保護者の取組

<関係者のプライバシーの保護、尊厳の保持>

- ・ いじめ（いじめの芽）を発見したらすぐに、学校へ通報する。
- ・ いじめの情報については、いじめた児童、いじめられた児童等のプライバシーや尊厳の保持へ十分に配慮する。

- ・学校等が行う調査に対し、積極的に協力するとともに、PTAの一員としての自覚をもち、学校と連携・協働して、適切にいじめ問題の対応にあたる。

【いじめ解消後の見守り】

教職員の取組

<継続的で組織的な対応>

- ・いじめが解消したとみられる場合でも、少なくとも3カ月の間は、継続して十分な注意を払い全職員での見守りを行う。事案によっては、この目安にかかわらず、注視を継続する。変化に気付いた場合には、その週のうちに共通理解の場を設け、全職員で指導に当たる。
- ・いじめを受けた児童およびその保護者に対して、適時（解消後1ヶ月は少なくとも週1回）・適切な方法（電話や訪問、面談等）で、継続して情報交換を続ける。
- ・下校の見守り（生活指導部・スクールガードリーダー、下校見守り隊）や定期的な校外巡視を行い、校外における児童の変化等にも気を配り、必要に応じて指導を行う。

児童の取組

<いじめを看過ごさない心もち、望ましい人間関係を維持する>

- ・いじめは絶対に許さないという意識をもち、いじめかもしれないと感じたことは、自他に起きたことに関わらず、教師や保護者等にすぐ相談するようにする。
- ・望ましい人間関係を自分たちで維持できるように努めつつ、気になることがあったときには、すぐに信頼できる大人（教師や保護者）に相談するようにする。

保護者の取組

<関係者のプライバシーの保護、尊厳の保持>

- ・いじめ（いじめの芽）を発見したらすぐに学校へ通報する。
- ・いじめの情報については、いじめた児童、いじめられた児童等のプライバシーや尊厳の保持へ十分配慮する。
- ・学校等が行う調査に対し、積極的に協力するとともに、PTAの一員としての自覚をもち、学校と連携・協働して、適切にいじめ問題の対応にあたる。

いじめ防止に向けた年間計画

西海市立大島東小学校

月	校 内	校 外
4月	○新学年への児童情報の引継ぎ（児童理解研修会①） ○新入学児童の情報の引継ぎ（幼稚園・保育園と） ○いじめ防止基本方針の確認、共通理解 ○地区児童会の編成及び活動開始 ○校外安全指導開始 ○スクールカウンセラー来校開始（週1回） ○授業参観・懇談会・PTA総会（家庭との連携・情報交換） ○クラブ・委員会編成（異学年交流） ○生活連絡会（毎月） ○校内支援委員会（毎月） ○いじめ対策委員会組織編成 ○PTA評議員会（保護者との連携：学期1回程度） ○朝のあいさつ運動（生活委員会）	○スクールガードリーダー・交通指導員による登下校見守り ○PTAによる登校見守り ○登下校ボランティアによる登下校見守り ※以下○登下校見守り
5月	○児童会スローガン決定（代表委員会） ○安全な廊下歩行啓発活動（生活委員会） ○運動会 ○なかよしタイムでの異学年交流開始 ○家庭訪問（家庭との連携・情報交換）	○登下校見守り ○P生活指導部あいさつ運動
6月	○いじめアンケート実施（保護者・児童） ○個人面談（全児童対象）	○P生活指導部あいさつ運動 ○登下校見守り

	○宿泊学習（5年） ○履物の整理整頓啓発活動（生活委員会） ○心を見つめる教育週間 ○道徳授業公開・懇談会（家庭との連携・情報交換）	
7月	○学校支援会議・学校評議員会議 ○幼小中高連携クリーン作戦 ○いじめアンケート集計と情報共有、必要に応じた対応 ○児童理解研修会② ○黙働清掃啓発活動（生活委員会）	○あいさつ・声かけ運動 ○登下校見守り ○校区内巡回指導 ○P生活指導部あいさつ運動
8月	○平和集会	○校区内巡回指導
9月	○修学旅行（6年） ○地域でのあいさつ啓発活動（生活委員会）	○登下校見守り
10月	○小体会（5・6年） ○児童理解研修会③ ○身の回りの整理整頓啓発活動（生活委員会）	○登下校見守り ○P生活指導部あいさつ運動
11月	○時間を守る啓発活動（生活委員会） ○いじめアンケート実施（全児童） ○個人面談（全児童対象）	○登下校見守り ○P生活指導部あいさつ運動
12月	○いじめアンケート集計と情報共有、必要に応じた対応 ○授業参観・懇談会（家庭との連携・情報交換） ○学校支援会議・学校評議員会議 ○持久走記録会 ○児童理解研修会④ ○人権集会 ○思いやりのある言葉掛け啓発活動（生活委員会）	○登下校見守り ○P生活指導部あいさつ運動
1月		○登下校見守り ○P生活指導部あいさつ運動
2月	○春を迎える会 ○送別集会 ○児童理解研修会④ ○安全な廊下歩行啓発活動（生活委員会） ○いじめアンケート（保護者）	○登下校見守り ○P生活指導部あいさつ運動
3月	○授業参観・懇談会（家庭との連携・情報交換） ○卒業式 ○児童理解研修会⑤ ○1年間の生活目標のまとめ（生活委員会）	○登下校見守り ○P生活指導部あいさつ運動